

営農ウィークリーNEWS

早め早めに！来年産水稻に向けて準備万端

9月15日の大原地区を皮切りに2020年産米検査が始まりました。7月の天候不順から一転して8月は高温が続き、乳心白粒、背・腹白粒が数多く見られました。また、カメムシによる虫害粒が目立ちました。



コブノメイガによる食害

圃場では、初期段階でジャンボタニシの食害による欠株が激発しました。出穂期以降はコブノメイガによる止め葉を主とした食害や、秋ウンカと言われるトビイロウンカによる坪枯れが多発しています。

少々気が早いですが、来年産水稻に向けての主な病虫害防除等の栽培管理や留意点を特集していきます。その第一弾として「ジャンボタニシ被害対策」を取り上げます。



ジャンボタニシの成貝



食害による欠株



産み付けられた卵塊

被害を防ぐ3つのポイント

- ◆ 広げない(越冬個体を少なく)
- ◆ 入れない(圃場への侵入を防ぐ)
- ◆ 食べさせない(稲に寄り掛かれない)

今後の具体的な被害対策

- ① 冬期に速度ゆっくり回転早目に耕うんし、物理的に貝を破碎したり、殻を傷つけ寒さの耐性を低下させ貝を減少させる。
- ② 寒さに弱いので、土中、用水路等で一部越冬するため用水路の泥上げ、エサとなる雑草の除去、水田の落水、用水マスの貝の除去を行う。
- ③ 貝は水中でしか稲を食べることができないので、次年度は水深4cm以下の浅水管理を行う。

—TAC information—



トビイロウンカによる全面倒伏！



秋ウンカと呼ばれ、通常1カ月弱で世代を繰り返すため急激に増殖します。低湿田、通風不良田、多肥田、晩生種等で発生しやすく、8月下旬から9月にかけて被害が拡大します。早期防除が最も大切ですので、株元の観察を含め、来年は早め早めの準備を心掛けてください。